

# 【喫茶★りんり】通信

News letter 第5号 2003年1月7日発行

皆さま、新年あけまして、  
おめでとうございます！

旧年中は、【喫茶 りんり】をご愛顧くださり、誠にありがとうございました。本年もどうぞよろしく、ご利用くださいますよう、心からお願い申し上げます



みなさま、毎日の業務、お疲れさまです。【喫茶 りんり通信】第5号をお届けします。

年末年始は、いかがお過ごしでしたでしょうか？「大晦日は夜勤で、元日は病棟で迎えたわよ！」という方もいらっしやったかと思ます。本当に、お疲れさまでございます m(\_ \_)m

マスターは、宮崎ではじめてのお正月を迎えさせて頂きました。1月というのに、抜けるような青空。海から昇る初日の出の光にキラキラ輝く水面。京都に住んでいた頃の、どんよりした元旦とのあまりの違いに感動してしまいました^^)

## 【ベッド・サイド・カフェ】のお知らせ

昨年8月末より開店させて頂いております【ベッド・サイド・カフェ】ですが、お陰さまで昨年8月以来、7箇所の病院等にて、計11回の出張オープンをさせて頂きました。今年もすでに、3月末まで4回の出張オープンのご依頼を頂いております。皆さま、本当にありがとうございます m(\_ \_)m

さて、今回も、少しだけ【ベッド・サイド・カフェ】の様子をご紹介します。今回の臨床ケースは、こちらです。

**皆さんも是非、読んでみてください。**

50歳代前半の主婦、Eさん。不安と抑うつメンタルケア目的で緩和ケア病棟に昨年11月末より入院中。大腸ガンのため、すでに人工肛門を設置し、全身にも転移が見られる状態。3ヶ月から長く持って半年の余命という診断。しかし、本人には病名や病状についての明確な説明はなされておらず、すべてが曖昧なままになっており、ストーマについても一時的なものという説明で治療が続けられていた。Eさんは、「嫌なことがあると、一生思い悩む性格」と自分でも言うぐらい、ストレス耐性が低い性格のため、ご主人の希望と医師の判断から、事実を伝えられないままになっていた。また「私だけがこの事実を知って、その苦しみに耐えれば済むことですから。」というご主人の強い要望のもと、長男と長女にも告知はされていない。

しかし、一向に改善されない病状や、ガンの進行によって現われてくる痛み、一時的なものと言われていたにもかかわらず、なかなか取ることができないストーマなど、これらによってEさんの周囲に対する疑念や不満は増大し、抑うつ状態がひどくなっていった。22歳になる娘さんは今年の秋に結婚式を控えている。Eさんは、娘さんの晴れ姿を見られるようになることを励み

に治療に専念していたが、一向によくない自分の状態に、闘病の意欲を失っている様子だった。

病棟で看護を続けているナース達からは、Eさんに残された時間とQOLを考えるならば、Eさんに真実を伝えたい方がいいのではないか、という意見があがった。そのことを主任ナースが主治医に伝えると、「ご主人が絶対に言ってくれるなって言ってるんだし…。家族の問題には、介入できないよ。」と消極的な返事しか戻ってこない。

緩和ケア病棟には専属の臨床心理士(カウンセラー)が勤務しており、ある日、Eさんの病室を訪れた際、Eさんは「せめて娘の晴れ姿だけは目に焼き付けておきたい…」と、言葉少なげに臨床心理士に語った。この言葉を聞いた臨床心理士は、やはり真実を告知すべきだ、という思いを強くし、担当のナースに「やっぱり本当のことを言うべきだと思う。」と伝えるが、一度主治医に伝えて良い返事がもらえなかったこともあって、積極的にはなれなかった。そのため、臨床心理士は、主治医に直接話しをしに行ったが、「その場にたまたまいて、たまたま聞いた言葉だけで判断されても困るなあ。それに、直接私が聞いたわけじゃないからねえ…。」と、やはり消極的な返事だった。

### 皆さんなら、どう考えますか？

患者さん本人に告知すべきだと思いますか？ それともご主人の意向を尊重して、これ以上「家族の問題」に深入りしない方が良いと考えますか…？

【ベッド・サイド・カフェ】では、前号でもお伝えしたように、グループに分かれて頂いて、20分～30分かけてディスカッションをさせて頂きます。普段は、なかなかひとつひとつの症例について、ゆっくり振り返り、考える時間がないのが現場の実情だと思います。ですから、【ベッド・サイド・カフェ】では、こうした典型例(typical case)を用意させて頂いて、まったく同じではないにしても、きっと読者の皆さんの中にも、似通ったケースを体験された方が、たくさん【ウラへ続く】

いらっやると思いますので、その経験に引き寄せながら、毎日の忙しい業務のなかでは、心の隅っこの方で“モヤモヤ”していたものを、ゆっくりじっくり見つめなおす時間にして頂ければ、と思っています^^)

さて、ではいったいこのケースでは、どうすべきなのでしょうか??? この問いに答えるためのヒントは、皆さん自身の中にあります。それを、どのようにして“ひき出す”のか。それは、前回も少しご紹介させて頂きましたように、是非ぜひ、**【ベッド・サイド・カフェ】**に参加されて、症例検討を倫理的観点から行う**「エシックス・ケース・カンファレンス(ECC)」**を、じかにご体験ください^^)/

ECCの様子については、前回の第4号で、少しだけ紹介させて頂きましたので、そちらも併せてご参照頂ければ幸いです^^)

今回は、その代わりに、**【ベッド・サイド・カフェ】**に実際に参加して下さった皆さんにご協力頂いたアンケートの「生の声」をご紹介させて頂きますね。(今回は、済生会日向病院、小林市立市民病院、国立療養所宮崎病院の看護師の皆さんからの抜粋です。)

\* 右の写真は県立日南病院での**【カフェ】**の様子です。

### Q.「臨床倫理」とはどのようなものか、理解できましたか?

・「倫理」と聞くと、堅苦しくて難しく感じるが、症例を通して学ぶことができたので身近に感じるし、**自分も似たような場面を経験したことがあったので、**理解しやすかった。

・「臨床倫理」という言葉だと難しいイメージがあり、「考えなくてはいけなくて、入り込みにくい」と思っていたが、**現場での“モヤモヤ感”のなかに倫理を考えるための大切なヒントがある**ことに気付かされた。

・倫理問題に気付くことはできても、**それを分析して具体的にどうすべきかを考えるのは、**まだまだ私には難しい(まだまだ学びが足りない!)

・実際の臨床ケースを通じて学べるので、とてもわかりやすい。**もっと他の事例についても学びたい。**

### Q.【カフェ】に参加して、これまでの臨床経験を振り返ることができましたか?

・似たような症例に関わったことがあり、**「これでいいのだろうか?」**と思うことがあった。自分が逃げていたのでは?と反省させられた。

・様々なケースが、様々な経過で、私の前を通り過ぎてしまっていた気がする。その時、私は何を考え、看護師としてどうすべきだったのか、**人任せではなく、自分で立ち上がらなくては**いけないのだ、とあらためて感じた。



・「おや?」と思ったことも、これまでは**自分の心の中にしまい込んでしまっていたが、**これからはケースカンファレンス等で、皆と話し合っていきたいと思う。

・いつも自分が抱いていた“モヤモヤ”をそのままにしていた自分を反省させられ、同時に**そのままにしていたことが、自分のやる気を失わせていた**ことに気付かされた。

・医師の指示を守ることのみが優先され、**患者さん本人やご家族の意思を優先した関わりが出来ていなかったのではない**か、QOLを考えた関わりが出来ていないのではないかと考えさせられた。**ひとりでは見落としてしまっていることも多々ある**と思うので、他のスタッフとコミュニケーションを図りながら看護実践をしなくては、と思った。

### Q.【カフェ】の内容を、今後の臨床現場で役立てることができそうですか?

・日々、看護をしていく中で誰でも感じるができることだと思う。ただ、**どのように対応したらいいのかわからず、忙しさの中で流されていくことが多かった。**しかし、臨床倫理の4項目チェックシートを活用し、皆でカンファレンスを行っていけば、もっと良い看護ができると思う。

・感情的になりやすい性格なので、“**モヤモヤ感**”をそのままにせず、言語化し、4項目チェックシートを活用しながら**「理性的言語」に翻訳する作業**を丁寧にやっていこうと思います。

・チェックシートを使って4つに分類することで、問題の焦点が明確化され、**見落としてた部分も見えてくるようになった。**ぜひ現場で使っていきたい。

・**医師も含めスタッフ全員が、この【カフェ】に参加してくれたら、**と思う。そうすれば、状況を変えていく方向性が見えてくるが、特に医師とは、お互いにじっくりと話し合いをするということがないため、不安。でも、少しずつでも他のスタッフに学んだことを伝えていこう、と思っている。

・あまり難しく考えずに、**まずは自分の中の“モヤモヤ”を周りのスタッフに話すことからはじめよう**と思う。

## 【喫茶 りんり】貸切サービスのお知らせ

【喫茶 りんり】では、本年も引き続き、お部屋の貸切サービスを行っております。学生さんの勉強会、サークル活動の打ち合わせ、病棟の皆さんの学習会や研修会、カンファレンス、そしてまたお誕生日会や各種パーティ等等。お気軽に、下記【喫茶 りんり】マスターまでお問い合わせください。尚、人数は12名が限度です^^;。あしからず m(\_ \_)m

<<発行責任者>>

宮崎医科大学医学部 哲学・倫理学研究室 講師

【喫茶 りんり】マスター 板井 孝彦郎

TEL&FAX 0985(85)1780 E-mail: koichiro@post.miyazaki-med.ac.jp

ホームページ出来ました!

<http://www.miyazaki-med.ac.jp/philosophy/index.html>

